



# 広島女学院同窓会 東京支部ニュース

編集・発行 東京支部役員会

2018. 11. 1  
第 72 号

## 今年度の聖句

一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶのです。

コリントの信徒への手紙(一)12章26節

## 広島女学院に繋がるもの

広島女学院中学高等学校 校長 渡辺信一

校長となり半年が過ぎました。132年という時をつないできた先達お一人お一人の広島女学院を大切に思う祈りを知りました。校母ゲーンズ先生がお一人で広島の地に来られ、新しい一歩を踏み出したときのお心はいかばかりでありましたでしょう。しかし、その孤独の中にこそ、今日の広島女学院に脈々と流れる、イエス・キリストがくださる愛を受け、ゆえに隣人を愛すことを中心に据えた生き方がある事に感謝します。

132年後の私たちは恵まれた環境にあります。生きる喜びと感謝をその恵みに伴うように持つことができているでしょうか。そのことに立ち返るために、中高では2019年度より新しい教育プログラムを持ちます。「学ぶ」「認める」「繋がる」ということを大切にします。本来「学ぶ」ことはワクワクし夢に向かい進むものです。その学びの原点に戻ります。時間の使い方や研究課題、その到達するところなど生徒一人一人のペースを大切にし、自分を認めることができるプログラムにします。その身に着けたことを他者と繋がることで知恵とし、自分も他者も認める安心した関係を築く力を持ち、一生涯、人と社会に繋がる生き方のできる女性になる基盤をつくります。

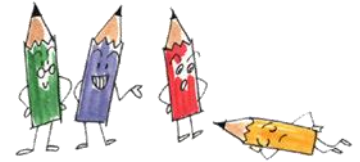
今年の創立記念礼拝の講師に、玉川聖学院理事・教育

相談顧問の水口洋先生をお招きしました。先生は、中学生には、「小さき弱い失われたものにこそ宝があるとイエス・キリスト



が大切にされました。ゲーンズ先生も広島の地で小さき弱者であった女子の教育を大切になさった。そのことを一人一人が受け継いできたのだ」とメッセージされました。また、高校生には、「心の隙間を、この世の宝、お金、SNSなどで埋めていないか。心の隙間にイエス・キリストの風や光を当てるのが大切なのだ」とメッセージされました。そして、中高生に、「だから、この創立記念の節目のとき、立ち止まり考えることにとても意義がある」と教えていただきました。先に紹介させていただいた教育改革が、この原点に立ち戻り進めることができることをどうぞお祈りください。

最後になりましたが、同窓会東京支部の皆様にご平安がありますことをお祈りいたします。どうぞ、変わらぬご支援をお願いいたします。



## 「女学院での学びとご縁に 導かれてきた私の人生」

竹内 道 (高校 26 回)



私は1974年に  
広島女学院高校  
を卒業しました。  
伸び伸びとした  
雰囲気の中で毎  
日学校に行くの  
がとても楽しみ  
でした。

中学一年の時  
のホームルーム  
の先生は家庭科

の片岡先生、高校三年の時は英語の細井先生でした。ちなみにお世話になった英語の先生は、高松先生、菱川先生、黒瀬先生、細井先生で、6年の間にみっちりリーダーやグラマーを学び、ジョスリン先生やイチエン先生から元気なアメリカ式英会話を習いました。そのおかげで6年の間に英語の世界が身近になりました。

英語の原文で本を読む新鮮さを学んだのも広島女学院在学中でした。初めて読んだ英語の本は19世紀前半のアメリカの文豪ワシントン・アービング著のアメリカ版浦島太郎、「リップ・バン・ウインクル」で、夏休みの宿題でした。この体験を通して、原語版と翻訳本に何か違いがあることを知りました。辞書と睨めっこしながら、どうにか読破したのを覚えています。

どういう経緯で巡り合ったのか、はたと思い出せないのですが、高校生の時に英語で読んだ「How to Be Your Own Best Friend」というアメリカの大ベストセラーがあります。翻訳本のタイトルをググってみると、「ベストフレンド、新しい自分との出会い」とあります。著者はニューヨークの精神分析医で、「個人の自立」について学ぶ大きなきっかけになりました。この本はボロボロの姿となって、いまだに私の書棚にあります。Hold onとかBring aboutといった前置詞付きの動詞を辞書で引いていて、日本語訳が赤字で本に書き加え

られていて、苦笑します。

今だから、時効だと思いますのでお話しできますが、高校生の時は学校の帰り道に友達とインディー系の映画を本通りや新天地の映画館で観ていました。一番、印象にあるのは、ジェーン・フォンダ主演の映画、「Klute」(1971年製作、彼女はこの映画でアカデミー賞主演女優賞を受賞、邦題は何と“コールガール”でした。この映画を見て、精神分析者やサイコセラピストという職業があることを知り、アメリカで心理学を勉強したいと思うようになりました。自分の抱えている悩みをオープン、かつ実務的に相談できる専門家が存在するというのに驚き、私もそのような職業につきたいと思ったわけです。紆余曲折を経て、アメリカの大学で心理学を勉強するために留学することになりました。

大学で心理学を専攻して卒業した後、私は精神分析者にならず、精神分析者のもとに通うことになります。そこで自立をすることについての悩みや、卒業後アメリカに居残って働くという希望を実現するための精神的なサポートを得ました。そして、ニューヨークにある日系最大手の広告代理店へ就職をし、永住権を取得。当時、台頭してきたケーブルテレビや衛星放送というニューメディア・ビジネスの分野にて仕事をするようになりました。その後、日系企業がアメリカで新規ビジネスに成功することを支援するコンサルティングビジネスを起業し、働くことに生きがいを感じながら、毎日を忙しく飛び回る生活を送りました。

そんな中、2007年に母が膵臓がんであることがわかり、看病をするために、日本に帰りましたが、4か月余りで亡くなってしまいました。突然の母の死で、自分の生き方について何か見直しをしなければという思いを持ち始めたのがこの時期でした。(母、竹内孝子も同窓生です。)



2010年の春、本当に偶然に、広島女学院の大先輩とニューヨークで巡り合うことができました。突然、アメリカ人の友人から連絡があり、「知り合いが急遽、ボランティアで日英の通訳ができるピンチヒッターを探している！内容はよくわからないけど、行ってあげてよ」ということ。私も内容について問い合わせることもせず、あたふたと指定された場所に行きました。これが国連 NGO の「ヒバクシャストーリーズ」との出会いで、この時に、高校で証言をするためにニューヨークにいられていたサーロー・節子さんと山田玲子さんにお会いするというご縁をいただきました。



サーローさんと 国連前で

それまで仕事中心だった私の生き方はその時から徐々にシフトして、ヒバクシャを家族に持つ広島出身の日本人としての認識を持つようになりました。核兵器のことが全く報道をされないアメリカに、その時点で 30 年以上も住んでいた私は、核兵器を無くそうという世界的な運動やヒバクシャの方たちの証言活動について何も知らず、

祖父と母のヒバク体験についても無関心でした。「核兵器と人類は共存できない！」と生涯をかけて世界中で訴えて来られた広島女学院の大先輩に、苦しいことはたくさんあったけれど、戦後、広島女学院がどれほどエネルギーに満ち、生き生きとした明るい学びの場であったかということをお話いただきました。



家族の被爆体験についてのディスカッション

この数年、アメリカ人の友人たちとサーロー・節子さんのドキュメンタリーフィルムを自主制作しています。アメリカに在住する私にできることは何だろうと考えた時、サーローさんのメッセージをアメリカで伝えていくことだと思ったからです。ストーリー展開について、アメリカ人の感覚と違うところがあって、討論をしながら制作をしています。出来上がった暁には、広島女学院の同窓生の皆様には是非、観ていただきたいと願っています。

広島女学院大学主催

## サーロー節子氏 特別講演会

キリスト教主義女子教育と平和 ~私が受け取ったもの、あなたに託したいもの~

日時 2018年 11/23 (金・祝)  
13:30~15:00 (開場12:30)

会場 広島女学院大学 砂本記念講堂

入場無料 要事前申込

詳しくはこちら >

2018 第14回江戸川平和コンサート

要事前申込

朗読と音楽で平和を!

入場無料

どなたでもご参加・観覧いただけます。

2018年 11月 25日 (日) (13:00開場) 13:30~15:30  
タワーホール船堀 5階小ホール

- ◆ 第1部 詩の朗読と、ピアノの共演 ..... 井野口慧子
- ◆ 第2部 ピアノ演奏 ..... 左手のピアニスト 智内 威雄

主催：親江会・江戸川平和コンサート実行委員会  
連絡先・TEL 03-5607-5975 ・メールアドレス soreyuke@net.email.ne.jp

編集後記 (P.8) もご覧ください。



## 手芸部の活動報告

7月29日(日)と10月7日(日)の2回で、台紙を切って布を貼るだけの簡単・かわいい「パスケース」を50個ほど作りました。11月の本部バザーに出品させていただきます。前号でご協力を募った際には、布やリボン、手作り品を寄付してくださった方、手芸部に登録のお問い合わせをくださった方などもありました。皆さま本当に有難うございます。

### 12月「入園・入学グッズ準備相談会」

12月2日(日)には入園・入学グッズの準備相談会を予定しています。

東京メトロ副都心線 北参道駅改札に午前10時集合。お子様連れも大歓迎！  
参加申込、詳細お問い合わせは、下記東京支部のアドレスへ。

引き続き、寄付やアイデア、在宅で縫物などのお手伝いをしてくださる方の募集をしております。今後ものんびり活動を続けていきたいと思っていますので、ご興味がありましたら、ぜひ東京支部宛にご連絡ください！ 担当：小林悦子(土生/高46)

[gaines\\_tokyo@yahoo.co.jp](mailto:gaines_tokyo@yahoo.co.jp)



可愛い布を使った手芸に日常を忘れ、後輩達が使ってくれる事を想像しながら、母校への思いを重ねた楽しい時間でした。 廣本 万里子(高19)



パスケース



柏木さんの作品

昨年末に体調を崩した夫が今年になり大分回復しましたので、毎週の礼拝出席と婦人会の手芸の会だけは責任上やっと出席しています。東京支部の方にも参加出来たらと思いますが、家で介護の傍ら、仕事はいくらかは出来ますので、また作品を送らせて頂きます。  
柏木 惇(福富/高3)





# ペーヨンセー小学校訪問記



## 小林悦子（土生/高校46回）

ヤンゴンから車で朝8時に出発し、途中で子供たちへのプレゼントの文房具などを買い、雨季明けのデコボコ道を走って、ペーヨンセー村に到着したのは、もう11時近くでした。

ミャンマーの貧しい村々に小学校を建設する活動を続けていらっしゃる古庄重生さんのガイドで、この度、広島女学院同窓会有志の寄付で新校舎が一棟増築されたペーヨンセー小学校と、2015年に別の村に建てられたカラーゴン小学校を訪ねました。



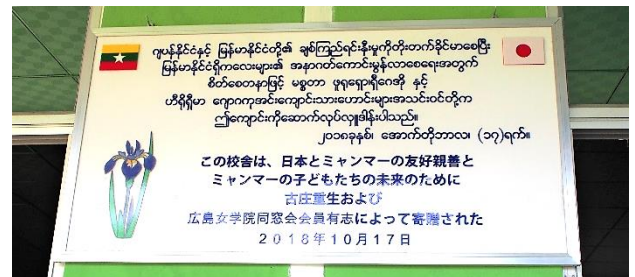
特にペーヨンセー小学校では落成式にお招きいただくという大歓迎を受けました。そのお礼に私たちは「手のひらを太陽に」の歌を披露し、続いて「あたま・かた・ひざ・ポン」という手遊び歌を振りをつけて歌った後、子供たちと一緒にミャンマー語で歌い、とても盛り上がりました。その他「日本クイズ」や、お土産の手作り紙風船・紙飛行機もとても喜んでくれました。5~10歳の子供が学んでいるということですが、どの子も学校が大好きという気持ちが溢れるように目がキラキラしているし、階段では手を取ってくれるなどとても親切で、きっと先生や親に悪態をつくことなどないのだろうなあと感じました。



村にはヤシの葉で葺いた質素な家が並んでおり、子供たちが学校に行かずに遊んでいたり仕事（お手伝い）をしたりしているのを見かけ、日本ではほとんど感じる事のない「貧富の差」とい

うものを目の当たりにしました。車内では古庄さんが「こういう場所に文明を持ち込むのはどうかと思うことも、実はあるんです」というお話をされました。確かに笑顔でのんびりと幸せそうに暮らしている村人の様子を見てみると、文明がもたらすものでこれまで何千年と続いてきた彼らの自然の営みが崩れてしまうのはとてももったいないことだとも感じました。ただ「貧困は連鎖します」というお話も聞き、やはり子供たちにはきちんと教育を受けられる環境が必要だと強く思いました。

最後に、広島女学院の卒業生でなければこのような機会に恵まれなかったと思い、とても感謝しております。子供たちがペーヨンセー小学校を巣立っても、少しでも日本や広島女学院のことを覚えていてくれると嬉しいなと思っております。



以下、同行した息子（小5）の感想です。

ヤンゴンの町は思っていた以上にぎやかで食べ物もおいしかったです。でも田舎の方は大きい建物はないし、家は木と葉だけでできているものばかりで驚きました。一つ目の学校は立派だったけど、二つ目は建物が一つしかありませんでした。でも子供たちは笑顔いっぱいだったから学校が楽しいのだと思います。ぼくの場合、学校まで900メートルくらいで足が疲れることがあるのに、3キロくらい歩いて通っている子がいてすごいと思いました。



## 報告 夏雲の集い 2018

7月7日(土)、銀座教会で関東ブロック主催の原爆死没者追悼礼拝「夏雲の集い」が行われました。



第1部の追悼礼拝では高橋潤牧師から赦しと癒しをテーマにお話を頂きました。原爆で亡くなられた先輩方も現代に生きている我々もイエス様の元で赦しと癒しをいただいているということ気付かされる時間でした。

第2部は中国新聞論説委員の森田裕美さん(高44)の講演が予定されていましたが、前日からの大雨の影響で上京が叶わず、急遽、ニューヨークから一時帰国されていた竹内道子さん(高26)にお話を頂きました。竹内さんは日米の架け橋になるような様々なプロジェクトに携わってこられ、2010年に国連NGO、Youth Arts New York / Hibakusha Stories にボランティアとして参加されました。竹内さんがどのようにしてこの活動に携わるようになったか、サーロー節子さんとの出会いを含め、ユーモアを交えて楽しくお話し

## 中村 元子 (村上/高26、文英8)

くださいました。サーロー節子さんと被爆証言活動を続ける山田玲子さん(高5)もスピーチをしてくださいました。

ご高齢になられ国内外での証言活動の機会が少なくなる被爆者の方々から被爆二世、三世がこの活動をどのように引き継いでいくのか真剣に考えなければならぬ時期になりました。二度と核兵器の悲劇を起こさないために、核兵器のない世界への歩みを止めるわけにはいかない。この決意を原爆で亡くなられた先輩の方々への誓いとして、私たち一人一人が出来ることをやっという改めて心に刻みました。

竹内さんとは30年振りの再会を抱き合って喜びました。純粹でナイーブで心揺れ動く学生時代に広島女学院で過ごした時間は年を重ねるごとに一層かけがえのないものになりました。空白の年月はすぐに吹っ飛んで、楽しかった思い出を共有することができました。



## 支部会費納入のお願い!

日頃より支部活動に対しましてご支援・ご協力頂き感謝致します。

私たちの活動は会員の皆様方の会費に支えられております。

**2018年度の会費(2,000円)の納入を宜しくお願い致します。**

同封の振替用紙のほかに銀行振込もご利用いただけます。

〈振込先〉三菱 UFJ 銀行 高田馬場支店

普通預金 0473771

広島女学院同窓会東京支部

封筒の宛名ラベルに「\*」が付いている方は今年度の会費を納入済みです。

手違いで振込用紙が入っていた場合はご容赦下さい。



会計 松岡



## 報告 2018 あやめの会【迎賓館赤坂離宮とランチ】

6月24日、オーバカナル紀尾井町でのランチと迎賓館赤坂離宮を見学しました。日傘が必要なくらいのお天気でしたが、お店から迎賓館まで皆でお喋りしながら楽しく歩いて向かいました。

週末だったこともあり観光客も多く、入念な荷物チェックを受けたのち自由見学・解散という形になりました。建物内の各所に案内係の方がいらっしゃり、構造や装飾・調度品などについて説明して下さるので、質問などしながら見学しました。賓客をお迎えする正面玄関や晩餐会が行われる煌びやかなお部屋など、テレビで見たことのある風景が目の前に広がり感動もひとしお。迎賓館内部は撮影禁止となっておりますので、機会がありましたらぜひ生でご覧になってみてください。 小林悦子(高46)

### 卒業しても繋がる新しい形 横山 智子(高47)

同級生が同窓会役員を務めているお陰で、同窓会行事という存在が今までになく近く感じられるようになりました。今回 aux bacchanale から迎賓館見学に参加させて頂けたのも、会報誌での告知と友人のLINEでの案内のお陰だと深く感謝しています。

結婚して東京に来た友人、大学から上京し就職した友人、転職して東京に来た友人。同じ制服を着て賛美歌を歌い、同じ学び舎で学び、家族のような存在である仲間たちも10代の頃とは違う悩みを持ち、日々を前向きに女学院生らしく生きています。

昔と異なり、いつでもどこでも繋がれるツールのお陰で、卒業してなかなか会う機会のなかった友人とも同窓会を通じて出遭え、人生の大先輩である女学院の先輩方の人生の深さ、明るさに触れさせて頂くことが出来て背筋が伸び、前向きな気持ちに溢れて帰路につきました。



♪どんなに長くごぶさたをしても  
LINEひとつ送るだけで学生に戻れる  
それぞれに抱えている悩み 打ち明けなくたって  
瞳を見ればすぐわかる 人生のゆくえぐらいは  
だって彼よりもっと心許している  
そんな仲間 永遠の友達 いつまでも友達♪  
(竹内まりや : Forever Friends)

## 関西ブロック合同同窓会に参加して



今年の関西ブロックの同窓会は奈良支部の担当で、6月7日、憧れの奈良ホテルで行われ、80名を超す同窓生が集った。礼拝、大矢会長の挨拶、フルコースのフレンチ、懇親会と進み、デザートタイムには、大正9年生まれれの98歳の同窓生、

山本幸代さんのピアノリサイタル。広島女学院専門部家事科在学中、クーパー先生からピアノレッスンを受けられ、音楽助手として広島女学院に残られたが、「生涯、勉強を続けなさい。音楽の神様を仰いでいくのですよ」という先生の言葉を今も心に刻み込んで生きていらっしゃるそうだ。ドビュッシーの「亜麻色の髪の乙女」など、心に染み入る温かく柔らかい音色に万雷の拍手だった。

その前日は、元、古文教師でいらした奈良の山口裕子支部長のご案内で興福寺や東大寺を拝観。普通の観光コースではないご説明がとても興味深かった。

厨子に入る弥勒菩薩や梅雨の雷 白井京子

# 東京支部 クリスマス礼拝

礼拝・説教：銀座教会 高橋 潤 牧師

&

森田裕美さん講演

『『被爆体験』を伝えるということ』

7月の「夏雲の集い」の際、大雨のため延期となった  
森田裕美さん（高 44、中国新聞論説委員）の講演です！

12月8日(土)

午後 1 時半～4 時半（1 時より受付）

日本基督教団 銀座教会

東京都中央区銀座 4-2-1

JR「有楽町駅」中央口下車 徒歩 5 分

地下鉄「銀座駅」下車 C6 または C8 出口よりすぐ

- ※ 他支部の方のご参加も歓迎いたします
- ※ 受付、茶話会準備など、当日“ちょこっとお手伝い”  
してくださる方を募集しています

お問い合わせ：gaines\_tokyo@yahoo.co.jp（東京支部）

## 神奈川支部 クリスマス会

11 月 26 日(月)13:30～15:30

日本基督教団 藤沢教会（藤沢市花沢町 2-5）

礼拝：黒田直人牧師

オルガンコンサート：黒田尚子さん（丸本 高 31）

参加費：500 円

申込先：常泉 TEL/FAX 046-293-2836

## 千葉支部 クリスマス会

12 月 3 日(月)10:30～14:00

新津田沼教会（船橋市前原西 2-37-18）

礼拝：古屋治雄牧師（阿佐ヶ谷教会）

茶話会

会費：1000 円（お弁当代）

申込先：村中/携帯 090-1774-5200

### 編集後記

※ 今年も 9 月に、80 歳以上の会費納入者 62 名の方々に感謝を込めて、東京支部役員の  
松岡理乃さんによる手作りのカードをお送りしました。

※ 江戸川平和コンサート(11/25)13:30～タワーホール船堀 5F、朗読（井野口慧子/高 14）とピアノ(左手の  
ピアニスト智内威雄) 入場無料 要申込 TEL03-5607-5975、メール:soreyuke@net.email.ne.jp

※ 広島女学院同窓会関東ブロックは、Facebook で情報を発信しています。是非、ご覧ください。

※ 東京支部から今後随時送信するメールによる情報をご希望の方は件名を「情報希望」として東京支部宛に  
メールをお送り下さい。 gains\_tokyo@yahoo.co.jp